

ン)を測定し検討を加えた。

重症型の虫垂炎でも術前の抗生剤の使用で白血球数は減少傾向を認めた。術後はすみやかに正常値におちついた。急性相反応蛋白の内 CRP は第一病日に、 α_1 -アンチトリプシンは第3病日にそのピークを認めた。

また術前の白血球数と急性相反応蛋白のパターンを検討すると、穿孔性虫垂炎及び急性腸炎例に CRP 高値パターンをとった。

以上ともすると軽視されがちな急性虫垂炎に対する抗生剤使用について検討を加えた。

14) 抗菌剤の胆汁内移行に関する検討

—胆汁酸代謝と関連して—

清水 武昭 (信楽園病院外科)
甲田 豊・青木 信樹
湯浅 保子・薄田 芳丸 (同 内科)
関根 理

抗生剤の胆汁内移行と胆汁酸代謝との関係を調べてきた。CMD, CEZ, MINO, CXM, CPZ の胆汁内移行は胆汁内胆汁酸濃度と比例し、胆汁外瘻の患者では胆汁飲用により抗生剤胆汁内移行は著明に増加し、胆管炎症例は抗生剤投与と共に胆汁飲用で治癒した。今回新しく開発された経口抗菌剤 CFIX と NY198 に付いて検討してみた。胆汁内 CFIX 濃度と胆汁内総胆汁酸濃度は5%以下の危険率で相関があり、ことに CFIX は胆汁内ケノデオキシコール酸濃度と2%以下の危険率で相関があった。CFIX の胆汁内移行は胆汁酸代謝と密接な関係にある薬剤と言えることが出来た。一方、NY198 の胆汁内ピーク濃度と胆汁内総胆汁酸との間には、CFIX の場合と異なり、関連はなく、NY198 の血清及び胆汁内ピーク濃度の危険率1%以下で有意の相関があった。CFIX と NY198 の胆汁内移行の機序は全く異なると考えられた。

15) 胆道閉塞前後における抗生物質の胆汁中移行に関する実験的研究

—特に胆汁中胆汁酸との関連を中心に—

川口 英弘・福田 喜一 (新潟大学第一外科)
吉田 奎介・武藤 輝一

雑種成犬を用い、正常時・胆道閉塞時ならびに閉塞解除後における抗生物質 (CZX) の胆汁中移行を検討し、以下の結論を得た。

①正常時においては、血液生化学検査値・胆汁中総胆汁酸濃度・胆汁中2次/1次胆汁酸比の値に多少の変動があっても CZX の胆汁中移行に差は認められなかった。②胆道閉塞時には有意に胆汁中移行が不良となり、また閉塞解除直後においては血中から胆汁中へ至る逆短絡経路の存在が示唆された。③閉塞解除後1週目では未だ正常時に比し胆汁中移行は不良であったが、内・外瘻群間の胆汁中2次/1次胆汁酸比に差を認め、CZX の胆汁中移行は外瘻群に比し内瘻群で良好な成績であった。胆道閉塞解除後の内瘻術や経口的自胆汁の摂取または胆汁酸製剤の服用により胆汁中の抗生物質の移行は良好となるが、これは胆汁中2次/1次胆汁酸比の正常化で示される胆汁酸の腸肝循環の回復によることを実験的に証明した。

特 別 講 演

外科領域感染症

—最近の話題—

名古屋市立大学第一外科教授

由 良 二 郎先生